Web プログラミング コーディング規約

麻生情報ビジネス専門学校 情報システム専攻科

目次

1.	ファイルについて	3
	● ファイルの文字コード	3
	● ファイル名について	3
2.	フォーマット	4
•	● インデント	4
•	● 中かっこ	6
•	● 1メソッドの長さについて	7
•	● 1命令の長さについて	7
3.	命名規則	9
•	ファイル名	9
•	● クラス名	9
•	● メソッド名	10
•	● 変数名	11
	パッケージ名	11
	● 定数名	11
4.	禁止事項	13
•	◆ 大文字小文字で変数を区別しない	13
•	● if, else, while, for, do while の中カッコは省略しない	13
5.	参考	14
6.	更新履歴	15

1. ファイルについて

● ファイルの文字コード

ファイルの文字コードはすべての種類において UTF-8 とする

● ファイル名について

命名規則の項を参照のこと

2. フォーマット

● インデント

- ・インデントは空白4文字分とする(tab可)
- ・中かっこ開始({)の次の行は必ず字下げする。
- ・中かっこの開始行と終了業のインデントは必ず同じ位置になるようにする

例)

【規約違反の例】

```
if(parm == 1) {
    param1 = 10;
    param2 = 10;
    }
    if 文の中は字下げすべきなのに下がっていないので NG
```

```
public class Main{
public void function(){
}
}
Main の次の行が字下げされていないので NG
```

【正しい例】

```
if(parm == 1) {
    param1 = 10;
    param2 = 10;
    }
    if 文の中が字下げされているので OK
```

```
public class Main{
    public void function(){
    }
}
Main の次の行が字下げされているので OK
```

例)

【規約違反の例】

```
if(parm == 1) {
    param1 = 10;
    param2 = 10;
}
if 文の開始のカッコと終了のカッコのインデントが合っていないので NG
```

```
public class Main{
   public void function(){
   }
}

メソッドの開始のカッコと終了のカッコのインデントが合っていないので NG
```

【正しい例】

```
if(parm == 1) {
    param1 = 10;
    param2 = 10;
    }
    if 文の開始のカッコと終了のカッコのインデントが合っているので OK
```

```
public class Main{
    public void function(){
    }
}

メソッドの開始のカッコと終了のカッコのインデントが合っているので OK
```

・if や for を記載するときは、処理が1行でも必ず中カッコをつける

● 中かっこ

・中かっこの開始({)の前には改行を入れない

例)

【規約違反の例】

```
if( parm == 1 )
{
    //do something
}
※中かっこの開始の前に改行があるので NG
```

【正しい例】

```
if(parm == 1) {
    //do something
} else if(param == 2){
※中かっこの終了の前に改行がないが else if なので OK
```

● 1メソッドの長さについて

1メソッドの長さは100行(コメント、空白行を除く)を目処とする。

100 行を超える場合は、処理をメソッドに分けて行うことを検討すること。

※100 行を数えるのが困難な場合は、画面をスクロールせずにメソッドの始まりと終わりが確認できる長さに収める

● 1命令の長さについて

1行の長さが画面に収まらないほど長い場合は、改行を入れて見やすくすること。

例)

【規約違反の例】

```
☑ TaskBolmpl.java

        🔝 JavaCProgramJudge.java 🖂
      90
93
94
        95
96
98
99
        100
101
103
104
105
106
107
        resultEntity.addResultTestcaseTbl(getResultTestcaseTblEntity(testcase,result,compileError,resultDir,err
108
109
      120
121
122
123
124
```

106 行目が画面からはみ出ていて見辛い

【正しい例】

改行を入れて見やすく修正した例

3. 命名規則

● ファイル名

- ・.java ファイルはクラス名と同じファイル名とする(大文字小文字も同じにする) 例)Main クラスは Main.java とする(main.java は NG)
- ・.jsp ファイルは全て小文字とし、区切りにはアンダーバーを使用する 例)会員の登録画面の JSP ファイルは entry_member.jsp とする)
- ・その他のファイル (xml など) は全て小文字とし、区切りにはアンダーバーを使用する

● クラス名

- ・先頭文字は大文字とし、文節は大文字で表す
 - 例) 会員登録のクラス
 - ○EntryMember
 - \times entryMember
 - ×Entry_Member (アンダーバーで区切らない)
- ・サーブレットは語尾に Servlet をつける

例)

- $\bigcirc LoginServlet$
- \times Login
- ・Dao クラスの語尾には Dao をつける

例)

- ○UserDao
- \times UserTbl
- ・Filter クラスの語尾には Filter をつける

例)

- ○EncodeFilter
- \times Encode
- ・自作の例外クラスには Exception をつける

例)

 \bigcirc AsoSystemException

$\times AsoSystemError$

● メソッド名

- ・先頭文字は小文字にし、文節は大文字にする
- ・動詞+名詞の順で名前を付ける
 - 例) リストを取得するメソッドの場合
 - \bigcirc getList
 - ×GetList (先頭が小文字ではない)
 - ×get_List (アンダーバーで区切らない)
 - ×listGet (名詞+動詞の順になっている)
- 動詞はメソッドの動きが想像できるものにすること 以下の項目を参考にするとよい

メソッドの動き	メソッド名(XXX部分は名詞が入る)	例
取得	getXXX	getList
設定	setXXX	setUserName
true か false を返す	isXXX	isStudent
検索	findXXX	findUser
	(getXXX でも可。プログラムの流れ	
	上わかりやすい方を採用する)	
作成	createXXX	createUserObject
削除	deleteXXX	deleteUserObject
更新	updateXXX	updateUser
変換	toXXX	toString
	parse	
比較	equal	
	match	
	comp	
	プログラムの流れによって使い分ける	
エラーチェックを	validateXXX	validateUserName
行う		

● 変数名

- ・先頭文字は小文字にし、文節は大文字にする
- ・文字数は 15 文字以内とする

(15 文字を超える場合は意味のある省略形をつける)

- ・インスタンスはクラス名の先頭小文字にしたものにする (String のインスタンスは例外とする)
- ・意味のない変数名はつけない(for 文のループカウンタは例外)

例) 太字が変数名

- ○UserInfoBeans userInfoBeans = null;
- ×UserInfoBeans user_Info_Beans = null; (アンダーバーで区切らない)
- ×UserInfoBeans param = null; (クラス名と異なる変数名)
- ×UserInfoBeans a = null; (意味のない変数名なので NG)
- OString name = "Nishino"; (クラス名とことなるが String クラスなので OK)
- ○UserInfoBeans userInfoBeans = null;

● パッケージ名

- ・全て小文字とし、文節には記号などは使わない
- ・役割事(サーブレット、DAO、モデルなど)に適切なパッケージを作成する

例)

- Owebsample.servlet
- ×WebServlet.servlet (大文字が含まれているので NG)
- ×aaaa.bbb.ccc (パッケージ名から役割が連想できないので NG)

● 定数名

マジックナンバーなどを避ける意味でも定数(enum 含む)を使用することを推奨する。 定数は以下にしたがって定義すること

- ・名前は全て大文字とし、区切り文字はアンダーバーとする
- ・宣言にはかならず final をつける
- ・public な定数については static をつける
- ・名前から何の定数かが想像できる名前を付ける

例)

- Oprivate final int MAX_INING = 9;
- \bigcirc public final static int MAX_PLAYER = 9;
- ×private int MAX_INING = 9; (final がついていないので NG)
- ×public final int MAX_INING = 9; (public なのに static がついていないので NG)
- \times private final int max_ining = 9; (小文字なので NG)
- × private final int M = 9; (名前から何の定数かがわからないので NG)

4. 禁止事項

● 大文字小文字で変数を区別しない

同じスコープ内で変数のスペルが同じで大文字小文字だけで区別してはいけない

例)

```
public GatchaBeans getRandom(LoginInfoBeans loginBeans) {
   int param = 0;
   int Param = 1;
}
```

param と Param で別の変数として扱われるが紛らわしいため NG

● if, else, while, for, do while の中カッコは省略しない

例)

```
if( loginBeans == null )
    return null;
```

return null は loginBeans が null の時だけ実行される。if 文の中カッコが焼灼されているので NG

5. 参考

- ・Java コーディング規約(Future Enterprise Coding Standards) https://future-architect.github.io/codingstandards/documents/forJava/Java%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%83%87%E3%82%A 3%E3%83%B3%E3%82%B0%E8%A6%8F%E7%B4%84.html
- ・Google Java Style Guide(非公式和訳) https://kazurof.github.io/GoogleJavaStyle-ja/

6. 更新履歴

修正日	修正箇所	修正内容	担当者
2018/10/30	-	新規作成	西野